第40号（2025年　7月号）

あらき通信

２０２５年　７月　３１日 発行

(株)アラキ工務店　　編集・発行　荒木　勇

〒 615-0906 京都市右京区梅津高畝町 52-2

Tel 075-882-8668　　www.kyoto-araki.jp/

Fax 075-872-0223　　info@kyoto-kozai.com

今年、創業100年を迎えました！

1925年4月、京都市中京区車道町にて初代荒木　勇治が一人親方としてスタート。先代荒木　正亘が受け継ぎ、伝統的建築物を次世代に繋ぐ活動を推し進める企業へと成長いたしました。これもひとえに、ご支援頂いてきたお施主様、そして襷(たすき)をつないでくださったOBと社員の皆様のお陰です。　今後とも一層のご指導ならびにご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。　代表取締役　荒木　勇

規矩術の勉強会

昨年12月頃から週1回若手大工4名を対象に、「大工するんやったらこれぐらいのこと知っときなはれ」と言うことで、規矩術(きくじゅつ)の勉強会をやってます。

いわば、仕事が終わった後の自主練です。

規矩術とは、指金(さしがね)やコンパスを使い、屋根の軒や隅木等を立体的に組み合わさる部分の墨付けに用いられます。

朝顔形の箱から始まり、四方転びの踏台、隅木谷木の模型を作成しました。何れも展開図、木の身返しの法、勾股弦の法と3種類のやり方を説明しました。何れも興味深く真剣に取り組んでくれました。これを基本に現場での経験で体得し、色々な仕事に挑戦して欲しいと願っています。

足達　宗凡

読売ten「のぞきみ」で大工見習を紹介！

５月５日、読売TV「かんさい情報ネットten.」という番組で、『ノゾキミ～女性大工見習の挑戦』というタイトルで工藤さんが活躍する様子を紹介いただきました

かんな台を作るところから、削ろう会全国大会に参加するまで、10回以上密着取材（^^)/　15分の枠いっぱい使って放映いただき感謝しています。

YouTube動画

未来探索塾

１月１７日、H2Oリテイリング（阪急阪神百貨店・関西スーパーなどのホールディング会社）さんの、若手育成プログラム「H2O未来探索塾」の塾生さんが僕の現場に見学に来られました！

事情があって、ハシリニワの幅を10cm狭くするなど凄く苦労していたので、いろんな人に話を聞いてもらえて嬉しかったです！

ちょっとでも、京町家を残す活動の大切さをわかっていただければありがたいなと思っています。

大工　三谷　拓也

土塀の修理

大きな京町家の土塀と瓦の修理を行いました。

景観重要建造物に指定されている建物です。

改修前は塀瓦が傷んで落ちて雨が漏れ、柱脚に土が被さって腐っていました。

改修後は柱脚の土を取り除いて地盤面を下げ、柱の倒れを直し柱の根継を行い補強を施しました。

土壁は全てこそげ落し、一部竹小舞を組み直した上で、漆喰を塗直しました。

塀の中に水が回って傷みが酷くなったので、修理に時間がかかってしまいました。傷みがわかったら早めに直すのが一番だなと思いました。

現場監督　嶋林 貴之

まちや守り隊結成！

左から、わんたろう、ちゅんた、にゃんすけ。お施主様かが作ってくれました！　人形劇でもつくろうかな(^^)/

エバーコーヒー

以前、新築建物をご紹介したフォーラムひこばえさん。

敷地内に　エバーコーヒーというカフェがあり　去年の9月初めから改修工事を始め、約9ヶ月かかりようやく完成しました。このあらき通信が、届くころには、オープン予定です。

今回も、もえぎ設計さんです。

表に木製デッキや石で縁取られたスロープもありバリヤフリーで入れます。窓から緑が見えて、木に囲まれたカフェです。建物の中もそこそこ木が使われています。床は、松板を黒く塗装しました。壁の波打っている板は、ハンドスクレイプされた木材です。槍鉋仕上げに少し似ています。天井は一部リブ付きの杉板を使いました。部分的に床の間のような場所がありますが、一度外した落掛や床脇の中袋を、構造用合板などで壁を補強してから再度取り付けました。

お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

荒木　智

エバーコーヒー　℡ 075-384-1536
福王子交差点から東に歩いて1分ほど。
福王子バス停の西北側です

正面壁がハンドスクレイプ仕上材

右奥が元床の間

スロープ工事中　仕上がりは見にきてね

ケラバの修理

ケラバとは、屋根の端の部分を指す建築用語で、特に切妻屋根の外壁から斜めに出ている部分のことです（部材の事ではありません）。

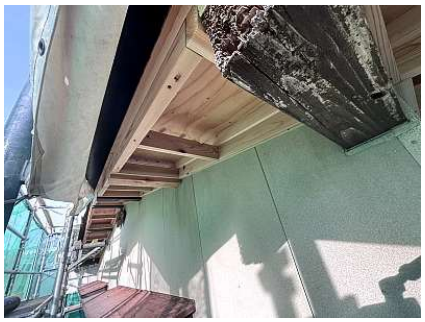
ケラバには色んな役割があります。まず、室内への日当たりを和らげてくれます。次に、屋根と壁の接合部から水が入るのを防いでくれます。最後に、外壁の劣化を防いでくれます。雨が外壁に当たりにくくなるとともに、紫外線から守ってくれる事も役割の一つです。ケラバが外壁の劣化を遅らせてくれるのです。

そんな大切な役割を担っているケラバですが、当現場では、数年前の台風の影響で板金が片面剥がれてしまったのと、経年劣化で板金下地が腐っていたので、下地から修理をする事になりました。

足場を組み安全な工事場所を確保します。近くで見ると、破風板が剥がれ、板金下地が腐っていて、軒天(珪酸カルシウム板)も剥がれてなくなっています。このままほっておくと、風雨の影響でいつ崩れるかもしれません。早急に工事に掛かります。

最初に工事箇所を解体します。すると、大きなスズメバチの巣が出てきました。天井裏にハチの巣がある事は良くある話です。ハチが一匹もいなかったのが幸いですが、夏の暑い日に遭遇するとぞっとします。

次に、板金屋根や軒天の下地を作っていきます。母屋木がケラバの下に出ていない所もありましたが、既存利用しつつ補強して破風板の下地も作ります。



下地に沿って鈑金屋根の構造用合板と軒天の珪酸カルシウム板を貼っていきます。外壁や母屋木との隙間は変性シリコンを打ちます。

最後に、上部は防水紙と板金を張り、下部は塗装して完成です。立ち上がり部分の板金も下地から補修しています。瓦との取り合いもありますので、最初の時点で瓦も外しています。

雨と搬入路には苦労しました。雨が降ると出来ない工事で、工程を組むのが少し大変でしたが、協力業者に助けられました。搬入路が狭くて足場を組むのに時間が掛かりました。

ケラバだけの改修工事は初めての事でしたので、とても良い経験になりました。台風でケラバが飛んだときは、是非僕に連絡くださいね！

島田　将也

右京区まちづくり大交流会

3月15日に右京区役所内大ホールで開催され、当社も出店しました。300名くらいの参加者ですごかったです。

牛田工場長の作った模型が光ります。

右京区のイベントだけあって、地元で当社の事をご存知の方がいろいろと来られ、ちょっといい宣伝になったかなと思っています。長い目で見て、お仕事につながればいいなと願っています♪

島田　将也

左官下地

代表的な左官下地をご紹介します。工期や予算、既存の建物の状態や耐力壁のバランス、耐水性・通気性・調湿性などの性能や、メンテナンスのしやすさなども考慮した上で、工法を見極めることが大切です。

1. 竹小舞下地

細く割った竹を格子状に組んで、縄やシュロ縄で掻いた伝統的な下地で、荒壁を塗り付けじっくり乾燥させた後、中塗り→上塗りで仕上げます。

非常に手間と時間がかかりますが、「町家は揺れてもつ」と言われる粘りがあり、自然素材、通気性・調湿性に優れる、部分的な補修も可能であるなどの長所があります。

2. 木摺下地

厚さ7～9mm、幅30～35㎜程度の杉板を目透かしに張り詰めた下地です。

明治中期に洋風建築の工法として取り入れられ、古い洋館や和洋折衷の建物などで、土壁や漆喰の下地として採用されていました。

木摺に直接土をつけてもくっつかないので、ます砂漆喰を塗り、乾く前に「追っかけ」で荒壁土をつけ、中塗り→上塗りの順で仕上げます。

自然素材で通気性・調湿性に優れ、竹小舞の土壁に比べると施工時間が短く済みます。

3. ラスボード下地

表面に浅い溝や窪みが多数設けられた石膏ボードです。継ぎ目でクラックが発生しやすいため、ファイバーテープなどでジョイント処理をした後、下塗り→中塗り→上塗りで仕上げます。

弊社では「工期は短縮したいけど土をつけたい」場合などに採用することが多いです。

4. 石膏ボード下地

石膏を芯材にして、両面を紙で覆った板状の建築用内装材料で、別名、プラスターボード（PB）とも呼ばれます。ラスボードと同様にジョイント処理をした後、下塗り→上塗りで仕上げます。 土は付きませんが、樹脂塗材料なら大丈夫。

施工が容易で寸法が安定しているため、最も施工時間が短く済み、コストも抑えることができます。

長崎　道

金属門扉の取替

昔は、門柱ブロックに門扉の金物を埋め込んで設置されることが多かったのですが、門柱が傾いて門.扉が閉まらなくなる不具合が多発したものです。今回も大谷石が傾いてしまいました。

せっかく直すので、インターフォン・郵便受・表札などをまとめて機能門柱を建てる事にしました。また、段差を無理なく降りられるように土間に凹みをつけ、那智黒石をちりばめてみました。

門扉のところを1段下げて道路に降りやすくしています。

これからも「ぶれず、めげず、あきらめずに」お客さんのお気持ちに寄り添えるような現場監督でありたいです。

嶋林 貴之

糸屋格子

前回でお伝えしました「鑿井（さくせい）工事」の現場のその後をご紹介させて頂きます。

鑿井工事の後、半年程経過しますが当初の予定より遅れながらも工事を進め、やっとのことで最後の仕上まで漕ぎつけたとことです。建物は築135年以上の古民家で、着工前の状態は、雨漏りが酷く、傷んでいる箇所も多く見受けられましたので、構造からの修理を伴うかなり大掛りな工事となりました。

こちらの建物は店舗（雑貨屋さん）併用住宅としてご利用頂くこともあり、建物の外観は特に慎重にデザインを検討させて頂きました。こだわりのポイントは3つあります。

ポイント① 板庇

現況の外観は、鉄骨で補強された深い軒が被っていて、室内への採光を妨げていました。そこで既存の瓦葺きの庇を撤去し、適度な奥行に造り替えた板庇（垂木が無く、板材を垂木に兼ねて造った庇）とさせて頂きました。板庇といえば京町家を連想される方もいらっしゃるかと思いますが、意外に古民家にも板庇となっていることがよくあります。

ポイント② 黒漆喰

こちらはお客様とご近所に残っている古民家を一緒に見て回り、多くの建物が黒色やグレー色で仕上げてられることに倣って黒色の外壁とさせて頂きました。木部のベンガラ風塗装との相性もバツグンです。

ポイント③ 平格子

外壁から出っ張らず、柱間に設けられた格子です。こちらも京町家を連想されるかと思いますが、古民家には出格子ではなく平格子が設置されていることが多く、内部の樹脂サッシを隠すようにデザインさせて頂きました。

格子の特徴としては糸屋格子です。そもそも京町家の格子は、その形や様式によってそのお店の職業が分かるようデザインされていたそうですが、雑貨屋さんで糸を使った商品を扱われることに因んで3本切子（タテ格子の上部が切られているもの）を採用させて頂きました。格子のピッチや材寸は例によって街中の格子を見て回り、バランスの良い寸法をこっそり測らせて頂きました(笑)。

上記の流れから今回の外観とさせて頂くことになりました。まだ工事は終盤に差し掛かったところですが、内装も含め最後まできっちり工事を納め、お客様にお喜び頂けたらと思います。

工事が終わり、お引越しされたら雑貨屋さんを再開されることになっています。 手作りの素敵な小物がそろっていますので、是非ともお立ち寄り下さい！

コヨミ舎

米沢 和也

京町家設計おたく塾

1月25日　京町家再生研究会主催の連続講座です。

塾生さん10名が当社にお越しになり、いろいろ、ヲタクなお話をさせていただきました（笑）。会社の機械や木材をみていただき、槍鉋の実演も。あらき古材倉庫や大工道具置場もご見学。みっちり2時間半、大変楽しく過ごせました

工場長 牛田 秀樹

卓球を通じて、笑顔と絆をつなぐチームづくり

アラキ工務店ではこの夏、社員交流として卓球を通じたチームづくり研修を行う予定です。この取組は、ただ身体を動かすレクリエーションではなく、一緒に楽しみながら、職場のつながりを深めることを目的としています。

ご協力いただくのは、京都を拠点に活動されているプロ卓球チーム「京都カグヤライズ」さんです。

卓球というと、若い人の競技というイメージがあるかもしれませんが、実は年齢や経験に関係なく、誰もが気軽に楽しめるスポーツです。ボールを打ち返すたびに、自然と会話や笑顔が生まれます。

当日は、いくつかのプログラムを順番に進めていきます。最初に行うのは、頭の体操のようなゲームです。これは、お互いの目的をきちんと聞き合いながら、一緒に納得できる答えを見つけていく内容です。たとえば、「オレンジが1つしかないときに、どう分けるか？」という場面を通して、話し合いや思いやりの大切さを学びます（卓球とは関係ないです）。

続いては、プロの卓球選手によるエキシビションマッチです。間近で見るトップレベルのプレーは迫力満点で、参加者の関心も高まります。その後は、チームに分かれ、実際に卓球を楽しんでいただきます。「ラリーチャレンジ」という種目では、チーム全員で協力してラリー（打ち合い）を100回続けることを目指します。ミスをしても責めることなく、みんなで声をかけ合いながら続けていく中で、自然と一体感が生まれていきます。

メインとなる「チーム対抗戦」では、4つのチームに分かれて試合形式で競い合います。とはいえ、勝ち負けよりも大切なのは「お互いを応援し合う気持ち」や「協力してプレーする姿勢」です。試合形式ではありますが、にぎやかで和やかな雰囲気の中、普段とは違う仲間の一面が見えるかもしれません。

このレクリエーションを通して、笑顔が増え、声をかけ合いやすくなり、安心して話せるそんな職場の土台づくりにつながることを願っています。

現場監督　柴田 秀俊

miratap design award 2024に入賞

当社で施工した「天使突抜の京町家」が、施工事例部門で入賞しました。

当社が応募したわけではなく、お施主さまが、ご自身で応募されました。大変うれしく思っています！

miratap 公式

背割り

牛田工場長が加工しました。

木材は、乾燥によって変形したり収縮したりする性質があり、その際に四方にひび割れが生じる場合があります。それを防ぐためにこのように背割りを施します。

最近の住宅では、構造材はビニールクロスで隠れてしまうので、背割りのない木材が使われています。でも当社では、化粧で見せるので、割と必要なんです。

木材について色々な話を聞くと、「木は生き物！」と感じます。面白いです♪

総務　北岡 真由美

今年も大工見習さんを採用しました！

昨年に引き続き女性の大工さんです。

中神りずなさん。熊本出身。なんと既に二級大工技能士です。 明るく元気に、毎朝、廃材を燃やしてくれています。

まめ鉋と、三浦大知と、阿部寛と温泉が大好き。

現場で見かけたら暖かく迎えてあげてくださいね！

夏を迎える前の"家仕舞"

① 梅雨時こそ、住まいを見直す好機です

じめじめとした空気に悩まされる梅雨の季節。実はこの時期こそ、住まいの"健康状態"を見直す絶好のタイミングです。というのも、湿気や雨が原因で、ふだんは見えにくい不具合が表に出てきやすくなるからです。

たとえば、壁紙の浮きやカビ、床のきしみ、サッシの結露など。こうした小さな変化は、住まいからの"SOSサイン"かもしれません。また、雨樋の詰まりや外壁のヒビも、雨量が多い今だからこそ発見できるケースが多々あります。

さらに、屋根裏や床下の湿気・カビ・シロアリ点検もこの時期におすすめ。気温と湿度が上がると、木材の劣化や害虫被害が進行しやすくなります。目に見えない場所こそ、専門家のチェックが安心です。

② 猛暑にそなえる、住まいの季節支度

年々厳しさを増す日本の夏。最近では35度を超える日が珍しくなく「災害級の暑さ」とも言われるほどです。そんな猛暑に備えるためにも、家の中を見直し、万全の準備をしておくことが大切です。

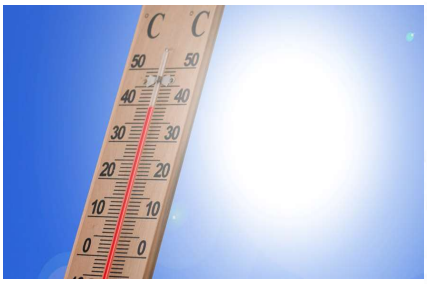
この時期おすすめなのが「家仕舞」という考え方。季節の節目に、住まいを"整える"ひと手間です。

まずはエアコンの点検とフィルター掃除。冷えが悪かったり、異臭がする場合は、内部クリーニングが必要かもしれません。あわせて換気扇や通風口の清掃もお忘れなく。熱や湿気がこもりにくい家にするには、空気の流れを意識することが重要です。

また、遮熱・断熱対策も猛暑には有効です。西日が強い部屋には、遮熱カーテンやすだれの設置、窓ガラスに貼る断熱フィルムなどが手軽で効果的。

網戸の点検・修理も大切な準備のひとつです。風を通しながら虫を防ぎ、夜も窓を開けて涼めるようになります。

小さな備えが、大きな快適と安心につながります。暑くなってからでは手遅れになる前に、「家じまい」という季節の手入れを通じて、健やかな夏を迎えてください。



現場監督　小野　敏明

三輪素麺

当社では、なぜか会社で三輪素麺の斡旋をしています。

先代から続く謎の習慣。 いい加減、会社の仕事と関係がないのでやめようかと思うのですが、誰か注文するんです。　今年はさらに斉藤康一君も注文したので、私も注文。 お昼食べるものがない時に茹でるのですが、素麺って腹いっぱい食べても、4時ごろになるとお腹が減ります。

なんでだろ。

住まいについていろいろな話　第36回　「京町家の改修補助金」

京町家を残すためあるいは住んでいる人の安全のため、京町家の構造の脆弱なところを補強し構造的に強化しあるいは地震時に住んでいる人の安全を確保するために、京都市などの行政が補助金を出して少しでも改修の手助けになればとの趣旨で援助してくれています。今回は補助金から見た改修の悩みです。

京都市の支援制度

京都市およびその関連団体では10種類以上の制度がありますが、3つほどご紹介します。

▶「京町家まちづくりファンド」

～工事費の2/3かつ上限500万

(財)京都市景観まちづくりセンターの補助金です。大きな金額ですが、すぐもらえるものではありません。「京町家まちづくりファンド委員会」にて審査し決定します。なかなかハードルが高くて年間の受給者が少数なので狭き門です。しかも、よい案件が多いと上限の半分以下しか補助されない事もあります。

令和2年に私が施工した建物がこの事業の紹介のパンフレットの表紙に載りました。イヤ～写真で見るとかなり感じが違いますが、オーナーの山野さんはゲストハウスとこちらの建物で忙しくされているのでよかったです。

山野邸 外観

▶「まちの匠ぷらす」

～京町家耐震改修：工事費用4/5かつ上限300万

これも大きな金額ですが、前提としてまず京都市が実施している「京町家耐震診断(無料)」を受けて→当然基準値以下になります。この計算での耐震診断値がだいたい0.1～0.2ぐらいです。この診断値を1.0以上になるように改修をする詳細な設計を行います→これを申請し、受理されたら→工事を行い→完了審査後→支給されます。設計に数ヶ月かかる上、完了報告が3月1日なので、結構タイトな日程です。受付開始前には全て書類をそろえ、4月下旬の受付開始後すぐに申し込むくらいでないと間に合いません。数値の1.0がかなり高いハードルなのであまり申請が無いのが現実です。京都市もこれではということで基準を緩めて0.7以上というのも作りました。4/5で150万限度と下げましたが、これもかなり高くてなかなか使いにくいです。よく年度内まで予算が余っているようで、9月や10月ごろになると京都市から「まだいけますよ」とアナウンスのメールが入ってきたりします（来年度も実施されるかは未確定）。

▶「まちの匠ぷらす」

～京町家簡易改修：工事内容により30万～5万まで

柱の根継や、感震ブレーカーの設置などです。近年は施工の手順を細かく写せと言われ、手間暇がかかりすぎて金額に見合わないことになりつつあり、やや敬遠気味です。もっと使いやすくしていただかないと施工者から勧められないなと我々は思っています。

もっと他にもいろいろあります。国の断熱などの補助金の方が、申請が簡単で使いやすいなと感じています。京都市も頑張ってほしいですね！

現場監督　村上　幸男

職彩博「お仕事体験型京都企業研究会」に出店

2月11日に経済センターで開催されました。

当社からは、大工の斉藤君が協力してくれて、カンナ掛けのデモンストレーションを実施。求職者よりむしろ、主催者の方々に好評で、別の場所でもお呼びがかかるようになりました！　いい人採用できたらいいな～って思っています。

柴田　秀俊

最後に一言

本当に一言になっちゃいました！　お茶室やりたいです！檜の鉋屑で入浴剤作りたいです！

ではまた。皆さんごきげんよう～　　荒木　勇